

向陵通信

学校便り NO. 10

札幌市立向陵中学校

令和2年 3月13日



心を寄せ合うこと



校長 横山 学

元号が令和になって最初の年度がもうすぐ終わろうとしています。人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味があるとのことですが、元号がどうあれ、人と心を寄せ合うことはいつの時代においても大切なことと考えます。現在、新型コロナウイルスが猛威を振るっていますが、困難な時こそ心を寄せ合うことを大切にしてほしいと思っています。

時代は大きく変化しており、情報通信網が発達し、人と直接対面しなくても会議ができる時代になっています。世界中の人々とリアルタイムで顔を見ながら話ができる時代になるとは一昔前には想像できなかったことでした。また、AIの性能が著しく向上し、複数人の声を瞬時に聞き分けて、リアルタイムに議事録を作成することも可能になってきているようです。時代はどんどん変わっていきますね。

しかし、世の中は、大きく変わりましたが、人と心を寄せ合い、思いをつなげることの大切さについては、いつまでも変わらないものであってほしいと思います。例えば合唱コンクールの取組で経験した心と心の本音のぶつかり合い、心が一つになった瞬間は、みなさんの心の中に一生とどめておいてほしいなと思っています。キタラのホワイエで円陣を組み、仲間と肩を寄せ合って本番前の気合いを入れたこと、キタラのステージ上で指揮者の顔をみんなで見つめ、心を寄せ合い一つにして声を合わせたことなど、みなさんは、この向陵中学校でたくさん心を寄せ合いました。これからの人生の中でさまざまな困難に直面したときに、この経験を思い出して、苦しいのは自分だけではない、頑張っていた自分や仲間がいた思い出を糧に困難に立ち向かってほしいと願っています。

昨年もこの向陵通信の中で書きましたが、すべてお膳立てされた中で、波風たたないよう本音を隠して、ただ人の言うなりに生きている若者の姿が望ましいものとは思いません。失敗して泣いたり、思い通りにならなくて悩んだりすることから逃げずに、変化の激しい世の中をたくましく生き抜いて行くことが大切です。とはいっても心が弱ってしまうことは誰でもあります。その弱くなった心を立ち直らせる原動力になるのが、「自分は一人ではない」「自分には仲間と頑張った思い出がある」などの心を寄せ合った思い出だと思います。皆さんの心の中には、この向陵中学校で努力した何かしらの思い出が必ずあるはずです。どうかこれからも長い人生の中でたくさんの心を寄せ合った思い出を創ってください。

最後に、卒業生の皆さん。卒業おめでとうございます。全校生徒で皆さんの卒業をお祝いする場面が少なくなり申し訳ない思いで一杯ですが、令和最初の記念すべき向陵中学校の卒業生である皆さんの前途に幸多きことを心から願います。どうか困難に立ち向かい、心を寄せ合うことを大切にしながら、新しい時代を切り拓いていってください。

向陵中学校を巣立つ 卒業生の皆さんへ

「心残りはあるけども、卒業おめでとう」

教頭 齊藤 康夫

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。今年度は教頭として、皆さんの生活を陰から支える仕事に就いていましたが、2年前のように、もう一度授業を通して皆さんの成長を支えたかったことが心残りです。

1年振りに再会した皆さんは、向陵中の3年生として立派な姿に成長していました。これからも皆さんの活躍を陰ながら応援しています。

「糧」

主幹教諭 杉田 勝

人生の全てはあなたの糧です。

糧は食べ物です。人生におけるそれは、「経験」という食べ物です。「良い経験、楽しい経験、成功した経験」というとてもおいしい糧もありますが、「辛い経験、失敗した経験」というちょっと苦かったり、しょっぱかったりする糧もあります。様々な糧によって皆さんには文字通り「酸いも甘いも噛み分ける」大人に成長してほしいと思います。ご卒業おめでとうございます。

ゆずの「友達の唄」より

音楽科 田中 義啓

『♪毎日毎日くだらないことやって、いつでもどこでもはしゃいでた～みんなといると嫌な事なんて全部忘れちゃうんだ～ふと足元を見てみよう、気付かなかったけどほらそこには忘れてはいけない思い、きっとあるから～今日は昨日の悲しみも明日への不安も全てしまつて夢見て笑っていうよ、生きるって事が何より素晴らしいって分かる気がするから、朝まで笑っていうよ』…3年生の卒業式の合唱も、素晴らしいものになっていたことと思います。卒業おめでとうございます。

「卒業おめでとうございます」

美術科 安藤 桃子

3年生のみなさん卒業おめでとうございます。1年間みなさんとの授業を通して、たくさんステキな作品と可能性に触れることができました。これからの人生の中でも、“自分の思いを形にする”ことは、様々な場面で必要とされます。自分の表現力を鍛えること、そして、相手の思いを受け止める感性を身につけることが、豊かに生きることに繋がると思います。進学後もみなさんの幸せをお祈りしています。

「卒業生の皆さんへ」

養護教諭 山鹿 知美

卒業おめでとうございます。義務教育の9年間が終了します。この9年間は、社会に巣立つ前、基本を学ぶ9年間でした。これからは、自分が学びたいことを学ぶ時間です。学ぶ時間を有意義にするためには、心身健やかに過ごすこと。健やかに過ごすために、あなたには何が必要ですか？進学先で見つけてください。

PTA広報紙……優秀賞！

令和元年度札幌市 PTA 広報紙祭りで優秀賞を受賞しました！広報委員の皆様お疲れ様でした！そして、取材にご協力いただいた皆様ありがとうございました。

卒業生より 「3年間の思い出」

「私の中学校生活」

3年7組 堀田 樹里

楽しかったこと、辛かったことなどのすべてを含めて、私の中学校生活は充実していた。そう感じる事ができたのは、仲間や先生方が支えてくれたからだと思う。

修学旅行や学校祭、合唱コンクール、部活動など、たくさんの活動をしてきた中で、一番思い出に残ったのは、部活動だった。部活動を通して、仲間と一つの目標に向かって努力することの大切さを学ぶ事ができた。ときに、チーム内で目指すものの意見が合わず、辛い思いもした。しかし、そんなときはいつも、仲間の支えに助けられた。かけがえのないチームメイトと前を向いて切磋琢磨していく中で、少しずつ有意義な活動ができるようになった。引退を迎えるときには、大きな達成感を得る事ができた。

支え合い、助け合える仲間をつくる事ができた2年半は、中学校生活の宝物の一つだ。部活動を通して、何があってもあきらめず、仲間と努力していく力を得る事ができた。

中学校生活で身に付けたことは、きっと将来にもつながる。だからこそ、後輩の皆さんには、充実した中学校生活を送ってほしいと願う。

在校生より 「お世話になった先輩へ」

「受け継ぐもの」

1年9組 畑中 優美帆

私たちがこの向陵中学校へ入学してきた時から、私たちのお手本となる姿を見せていただき、中学校のことは全く知らなかった私たちはとても心強かったです。

部活動や委員会、日常の小さなところで、一生懸命頑張る姿を見せてくださったことで、私は先輩のように頑張りたいと強く思いました。体育大会や学校祭、合唱コンクールでは、先輩たちの団結力を強く感じました。私たちはまだ団結力はあまりないところがあるので、3年生になったら先輩たちのような強い団結力を作っていきたいと思えます。

先輩たちは私たちの憧れです。私は先輩のような優しく、後輩のお手本となれるような憧れの存在となれるように、日常の一つ一つのことや部活動など一生懸命頑張りたいと思えます。今まで本当にありがとうございました。